

## ●22年間好きな街に住み、好きな仕事をしています

僕が日本に初めて興味を持ったのは、祖父の影響です。祖父は学校の教師でしたが、戦時は、オーストラリア軍の兵士として日本軍と戦いました。でも戦前から日本文化に興味を持っていたので、教師を退職してから日本に遊びに来たこともあります。家には行灯とか絵巻物とか、日本のお土産がいろいろありました。車もテレビも日本製で、それを自慢していました。日本のモノづくりのすばらしさも、よく聞かされました。

高校生のとき日本との交換留学生に選ばれました。留学の先輩から古戦場や城が多く、侍の歴史のルーツともいえる東海地方の話を知りましたが、僕のステイ先は札幌でした。でも偶然、その家のお父さんの友人が名古屋の人で、英傑行列の家康役をやるような人でした。その写真集を見せてもらって名古屋への憧れが募りました。

1年間の留学を終え帰国し、専門学校を経てラジオやテレビの世界で働くようになりました。でも日本に帰りたいという思いが強くて、オーストラリアで7年間DJをした後、日本で働くことになりました。最初は東京でしたけど、名古屋に新しいFM局ができるという話が舞い込みました。東京のDJからは「名古屋？ かつこ悪い!」とか言われました(笑)。でも以前から僕は、戦国時代の中心都市で深い歴史を持つ名古屋に憧れていましたので、迷わず応募し採用されました。それから名古屋に住んで22年になります。今は好きな街に住み、好きな仕事をしている、いちばん幸せな状態です。

## ●甲冑づくりで知ったモノづくりの神髄

2年に1度くらいオーストラリアに帰りますが、私にとっては名古屋がホームです。東京でもない、大阪でもない、名古屋が好きです。大都市というより、ほどほどの都市。人が密集していないから、ゆとりを感じます。それでいて東京、大阪へのアクセスがいいから便利。住んでいる人もフレンドリーで居心地がいいです。

名古屋へ来て間もないころ甲冑姿のおじいさんに出会いました。記念写真を撮りたいからとお願いし工房にうかがったら、そこは私にとって天国でした。素晴らしい甲冑がいっぱい並んでいたのです。その方が甲冑師と知り、こんなチャンスはないと思ひ弟子入りました。甲冑づくりを通じて日本の職人のモノづくりの姿勢を学びました。知識や技術が優れているだけではない。見えないところでも決して手を抜こうとしない。だから出来る上がる

# 名古屋の人が地元の歴史や文化を学び誇りを持って情報発信するそれが国際都市への第一歩です



日本で人気DJとして活躍するクリスさん

ものは、防具であると同時に美術品でもあるのです。メディアで日本の文化や歴史を紹介するとき、そこでつくらせていただいた甲冑を身に付けることもあります。

## ●住民は魅力を伝える「民間大使」

名古屋を中心とするこの地域は歴史的資産が多く、侍のふるさととも言えるところです。しかもモノづくりに優れ、経済力もある。こんなに魅力いっぱいなのに、僕が22年間暮らして感じるのは、名古屋圏の人がその魅力をあまり誇りに思っていないということです。東京がいい、大阪がいい、京都の歴史が素晴らしいという。でも、愛知・名古屋だって素晴らしいです。愛知県内にある城跡の数はほう大です。江戸初期の大名の多くは名古屋を含む愛知の出身です。名古屋城は、徳川家の本城である江戸城に匹敵する立派な城でした。こうした歴史をまちづくりに活かす方法の一つとして、昔の地名を復活させるというのもいいですね。例えば今の錦〇丁目ではなく、伝馬町とか鉄砲町とか昔の町名にした方が歴史や文化が伝わります。

ネームバリューの弱さも名古屋の課題ですね。国内でも印象が薄いですが、外国へ行くと名古屋を知る人は、まずいません。東京、京都、大阪、広島、長崎、札幌は外国でも知られています。それぞれどんな都市か、イメージできる特徴を持っています。でも僕が名古屋のことを口にするると「それどこ？ どんなまち？」です。

名古屋のネームバリューを上げるには、まず地元の人の教育からです。名古屋の歴史、文化、技術のすばらしさを学び、それに誇りと自信を持つことです。例えば歴史を振り返ると、秀吉は名古屋から大阪へ多くの人材を引き連れ、そこへ名古屋の文化を定着させました。愛知から江戸へ行った家康もそうでした。尾張弁が当時の標準語だったという説もあります。名古屋は日本のふるさととも言えるのです。

名古屋の人がそうした歴史や文化に誇りを持ち、積極的に情報発信していく。多くの外国人にも名古屋の名が知られ、この地を訪れるようになる。それが新しい交流や地域力のアップにつながります。地元の人には民間大使なのです。国際都市・名古屋のスタートは、そこからだと思います。



ラジオDJ/インバウンド観光アドバイザークリス・グレンさん

1968年、オーストラリア・アデレード生まれ。ロータリー交換留学生として初来日し、日本文化に感銘。帰国後、ラジオの人気DJとなるが、日本への思いを捨てきれず再来日。93年、名古屋で開局したFMラジオのDJに。住まいも名古屋に移し、東海地方のメディアを中心に活動を続けている。著書に「豪州人歴史愛好家、名城に行く」(宝島社)がある。